

新まちづくり計画（H16～18）事業総括調書

施策体系コード	4-2-2	4-2-3	事業名	トップアスリートの積極活用
担当	観光文化局スポーツ部企画事業課 福士 211-3044			
全体計画（当初）				
事業内容	トップアスリートフォーラム トップスポーツと市民を身近にするためのプラットフォームを構築する。まずはテーマを設定したフォーラム的なものを開催し、そこで得られたものからプラットフォームの枠組みを構築する。 トップアスリートバンク 野球、サッカー、スキージャンプ、アイスホッケーなどのスポーツで一流選手として活躍したトップアスリートは、引退後に球団に残ったり解説者になるなど、それまでに蓄積した技術や知識を活かす機会を得ることもあるが、大部分の選手は競技経験を生かす活躍の場がない。引退後のトップアスリートに指導者として登録してもらい、地域の求めに応じて派遣を実施するしくみを構築する。		<年度別の事業内容>	
			平成17年度 ・フォーラム開催 ・バンクのしくみを構築 平成18年度 ・前年度の実績を踏まえて企画、運営しフォーラムを開催 ・他都市のバンク及びトップアスリートの活用状況を調査	
事業内容（量・場所・規模等）	平成16年度事業内容（決算）		平成17年度事業内容（決算）	
	なし		・フォーラム（トップアスリート活用事業）の開催 スノーバトルの実施 小中学生を対象にファイターズ、コンサドーレの選手を招き、スノーバトルを実施。 内容：雪合戦、ストラックアウト、キックターゲット等 参加人数：約400名 クロスカントリースキー講習会 クロスカントリースキー選手を招き、FISワールドカップクロスカントリー2006札幌大会の観戦と講習会の実施 参加人数：20名 ・バンクに関する他都市の先行事例の調査	
事業内容（量・場所・規模等）	平成18年度事業内容（決算）		評価（成果）	
	・フォーラム（トップアスリート活用事業）の開催 当市にて開催される大規模スポーツ大会参加のため来札したトップアスリート等を活用したスポーツ教室、講演会などを開催し、市民のスポーツに対する関心をさらに高め、スポーツを始める動機付けを行う。 オリンピックメダリストによる柔道教室（6月） 柔道の大会で来札するトップアスリートによる小中学生対象の柔道教室を実施。 参加者：360名 千葉 真子トークショー（9月） 札幌マラソンのゲストランナーとして来札したマラソンのトップアスリートを講師としたトークショーを実施。 来場者：224名 ・他都市のトップアスリート活用状況の調査		18年度は各種大会のために来札したトップアスリートを活用し、予想を上回る参加・募集があり、市民から好評を得ることができ、多くの市民がトップアスリートと身近に接することで、スポーツに対する興味・関心を高めることにつながった。 また、他都市のトップアスリート活用状況についての調査により、今後のバンク設立に向けて検討を進めるための有効な情報を入手することができた。	
		課題		
		より多くの市民がトップアスリートと接する機会を提供するための事業内容の検討が必要である。また、トップアスリートに事業への参加を依頼するためには、競技団体等との連携を深め、情報交換を綿密に行う必要がある。 また、バンクの活用については、トップアスリート・一般を含め、仕組みづくりなど十分な検討が必要である。		
19年度以降の方向性・事業の予定				
・フォーラムの開催 市民からは身近にトップアスリートと交流できると好評であることから、継続してしフォーラムの開催を検討（年2回程度）				

